

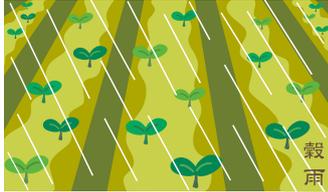
Dr. バシラス りんどうの観察

TT-030

2013/6/30

Dr. バシラス投入のりんどうと未投入のりんどうとで観察をする。
それぞれのりんどうはDr. バシラスの投入以外はほぼ同一条件で育てるものとする。

1]りんどうの成長が思わしくなく、りんどうの根元にDr. バシラスを一つまみずつ投入し投入しなかったものとの成長の様子を観察する。



2]Dr. バシラス投入から1ヶ月後のりんどうの写真撮影



Dr. バシラス未投入の畑



Dr. バシラス投入済の畑



Dr. バシラス未投入の畑



Dr. バシラス投入済の畑

3]コメント

Dr. バシラスを投入したりんどうは、未投入のものに比べ明らかに成長に差がみられる。

4]考察

Dr. バシラスに含まれる微生物が土中の有機肥料分を分解、細分化することにより、植物の栄養の吸い上げが改善され植物の成長は促進される。

リンドウ 定植時 一時間で長持ち

栃木県の 根鉢露出+納豆菌資材

栃木県の 渡辺さん

栃木県塩谷町の渡辺肇さん(60)は、定植時に



④状態で流し洗ったリンドウの達人の技と新資材で、リンドウの持ちが違っていると渡辺さん夫妻(栃木県塩谷町で)

独特の処理をする達人の土壌活性資材を駆使し、リンドウを柱に野菜などを栽培。「根の張りが違うためか、健康で病虫害にも強い」と、一般的には1作3年ほどといわれる連作で「既に5年以上」の実績を挙げる。2012年に郡山花き市場賞を受けたほどで、その技術は地域の注目を集めている。

渡辺さんのリンドウは栃木県期待の品種「るりおとめ」。「初夏を彩る瑠璃色の乙女」をイメージして名付けられた。極早生系で花は濃い紫色。咲きそろえが良く、1株当たりの花付きが10個以上というのが特徴だが、「1作3、4年ごとに新しい場所へハウスを移動する必要がある」と渡辺さん。

渡辺さんの友人のリンドウの達人から伝授された技の一つが定植時の苗処理だ。セル苗をそのまま定植するのではなく、土を洗い流し根鉢を露出させてから定植することで健康な生育を促すというテクニクだ。

セルから苗を外す時も、つかむと「根が焼ける」ので触らずに水の中へ投げ込んでから洗い流す。「手間がかかるので、ほとんど誰もやらないが、これによってリンドウが「根鉢で首を絞められる」ことがなく、何年も持つ」という。

達人の技をさらに支えるのが微生物土壌活性資材だ。納豆菌の一種を主成分とする「Dr.バシラス」。渡辺さんは有機質肥料を合わせることで、さらに健康な生育を確保する。「売れ残ったリンドウ苗も生き返るし、不思議に害虫も寄り付かない」。また、妻の和美さん(60)も「直売所や学校給食に提供する小松菜も、苦くないと喜ばれている」と新資材の効果を絶賛している。

果ては、リンドウの達人から伝授された技の一つが定植時の苗処理だ。セル苗をそのまま定植するのではなく、土を洗い流し根鉢を露出させてから定植することで健康な生育を促すというテクニクだ。



郡山花き市場最優秀賞